

○議長（吉田敏郎）

日程第２ 一般質問を行います。質問の順序は通告順に行いたいと思いますが、御異議ございませんか。

（「異議なし」という者多数）

○議長（吉田敏郎）

御異議なしと認めます。よって、一般質問は通告順に行うことに決まりました。

それでは、一般質問に入りますが、質問、答弁は簡潔にお願いします。

３番、武井正広議員、どうぞ。

○３番（武井正広）

皆様、おはようございます。３番、武井正広です。

今回は、トップバッターとして質問させていただきます。また、傍聴に来ていただいた皆様方、ありがとうございます。通告に従いまして、教育のまち「開成」におけるプログラミング教育と英語教育について、質問させていただきます。

グローバル化やＡＩなどの技術革新が急速に進み、予測困難なこれからの時代、子どもたちには自ら課題を見つけ、自ら学び、考え、判断して行動し、より良い社会や人生を切り拓いていく力が求められます。学校での学びを通じ、子どもたちがそのような「生きる力」を育むために、来年度から小学校、再来年度から中学校の学習指導要領が改訂され、全面実施されます。

その中で、特に注目されているのがプログラミング教育と英語教育であります。小学校でのプログラミング教育の必修化、翌年、令和３年度からの中学校でのプログラミング教育の拡充、それ以降も高校での必修化、大学入学試験での導入検討となっています。また、英語教育においては、小学校３・４年生からの外国語活動、小学校５年生、６年生からの外国語が教科となっております。

教育の町として、これからの社会を生きていく子どもたちにとって極めて重要だと考えるプログラミング教育と英語教育を、どのような位置づけで考えているのか、二つ質問させていただきます。一つ目です。来年度から全面実施されるプログラミング教育に向けた準備状況と見通しは。二つ目です。小学校における外国語活動の現状と課題は。以上を壇上からの質問といたします。よろしくお願いいたします。

○議長（吉田敏郎）

教育長。

○教育長（井上義文）

おはようございます。

ただいまの武井議員の御質問にお答えいたします。

令和２年度から全面実施される小学校の新学習指導要領では、プログラミング的思考の育成を目指すプログラミング教育が取り入れられます。また、新学習指導要領では、小学校５・６年生に対し外国語を教科として年間７０時間の授業と、３・４年生に対し外国語活動として年間３５時間を取り入れることを位置づけています。外国語については、移行期間として平成３０年度から準備を進めています。

このうち、小学校5・6年生の外国語は、教科としての位置づけであり、教科書を基本とした指導を行います。これに対しプログラミング教育は、教科ではなく、学校の教育活動全体を通じて進めていくべき教育内容であり、各学校が学習指導要領の趣旨を踏まえて柔軟に対応していくものです。

町では、学習指導要領に基づきながら、「開成町人づくり憲章」に定めた人づくりを進めるため、さまざまな取り組みを進めています。

それでは、一つ目の来年度から全面実施されるプログラミング教育に向けた準備状況と見通しはについて、お答えいたします。

「プログラミング」という言葉からは、コンピューターのプログラミング言語やその操作を連想しがちですが、新学習指導要領では、コンピューターを使用した体験だけがプログラミング教育ではなく、子どもたちが将来、どのような職業についても普遍的に求められるプログラミング的思考の育成を目指しています。プログラミング的思考とは、自分が意図する一連の活動を実現するため、どのような記号を組み合わせたり、改善したりすれば自分の意図した活動に近づくかといったことを論理的に考えていく力とされており、

プログラミング教育は、教科ではなく、このように論理的に考えていく力を教育活動全体を通じ身につけるものであることから、例として、算数、理科、総合的な学習の時間の中でプログラミングを体験しながら論理的思考を身につける方法が文部科学省からは示されています。理科の例では、小学校6年生の学習として、電気の性質や働きを利用した道具について、その働きを目的に合わせて制御したり、電気を効率よく利用したりする工夫がなされていることをプログラミングを通じて確認することが挙げられています。

来年度に向けた準備として、開成小学校では、今年度の子どもたちが学習用に使用する教務用パソコン更新の際に、あわせてプログラム教材を導入してございます。また、学校教育と社会教育が連携した取り組みとして、あじさい塾（土曜学校）においても、今年の5月にプログラミングをテーマに小学生向け講座をはじめて実施しましたが、定員の2倍以上の申し込みがあったことや、タブレット端末を使って自分の意のままに水生生物に動きをつけるプログラミングの体験が参加した子どもたちに大変好評でございました。

プログラミング教育の内容の理解を進めるため、文部科学省や神奈川県では準備の一環としてセミナーや説明会を開催しており、町からも職員や教員が順次参加しており、その内容は学校現場に周知しているところでございます。

このように、来年度から実施に向けた準備を一步ずつ進めていますが、日々の授業の中でプログラミング的思考につながる論理的思考力を育てるよう工夫し、授業改善を図るとともに、社会教育の分野とも連携を図りながら進めてまいりたいと思っております。

次に、二つ目の小学校における外国語活動の現状と課題はについて、お答えいたします。

本町では、平成２９年度に文部科学省が示した各学年の年間指導計画をもとに、移行期間である平成３０年度、令和元年度の対応を各小学校の外国語教育担当及びＡＬＴという英語を母国語とする外国語指導助手により検討を進めてまいりました。その結果、３・４年生１５時間、５・６年生５０時間分の指導内容を確認し、ＡＬＴを週３日程度、各小学校に配置の上、外国語活動及び教科化に向けて、現在、授業を実施してございます。

課題としては、小学校は教科担任制ではないため、個々の子どもの状況に応じて全ての教科において総合的に指導を行う能力が教員に求められているということでございます。この対応として、学校ごとに外国語教育の核となる教員の育成を進めるとともに、国が用意した教員用教材の活動や小・中学校の連携による授業研究などを随時実施してございます。

一方で、今後の教科指導に向けては、外国語専任の教職員を配置することも課題解決の一つの方法と考え、神奈川県に要望し、今年度は小学校両校で１名の専任教職員を配置することができました。その結果、３・４年生は１５時間の予定でしたが、２５時間まで増やして授業を実施することになりました。現在は、この教員が中心となって準備を進めているところでございます。この外国語専任の教職員配置につきましては、県西地域で開成町のほか、小田原市、南足柄市、大井町の市・町で各１名ずつの配置となっており、貴重な教員配当を受けられたことになっております。大変、ありがたいことです。

町では、学習指導要領とは別の独自の取り組みとして、幼児期から外国語に触れる機会を設けるため、これまでも開成幼稚園の園児や小学校１・２年生にもＡＬＴによる外国語体験学習を実施してございます。また、大学に留学生として在籍する外国人を各小学校に招き、異文化交流事業を毎年、行っております。これらの取り組みも、今後、継続していきたいと考えております。

新学習指導要領が来年度から実施され、さまざまな対応が新たに必要となることもありますが、異文化に触れることや外国語を学ぶことは子どもたちの生きる力を育むために重要であるため、準備や実施には万全を期してまいりたいと存じます。

以上です。よろしくお願いいたします。

○議長（吉田敏郎）

武井議員。

○３番（武井正広）

教育長、分かりやすい一定の答弁をいただきました。それでは、再質問をさせていただきます。

まず、最初に一つ確認をさせてください。今回の学習指導要領、約１０年ぶりの改定についてですが、前回、約１０年前の学習指導要領の改訂というのは、大きく考えると、ゆとり教育からの脱却、脱ゆとり教育、理数科目や外国語を頑張りましょうと。そして、今回、１０年後、明確に、これからのグローバル化や人工知能、ＡＩなどの急激な変化の中で生きていくんだぞということでの改訂と私は捉えています。その中

でも一番重要な取り組みというのがプログラミング教育と英語教育だと考えますが、いかがでしょうか。

○議長（吉田敏郎）

教育長。

○教育長（井上義文）

ただいまの御質問にお答えします。

一番重要か、では、2番は何か、3番は何かということになりますので、順位制については、私からはちょっとお答えしにくい部分がございます。国の施策として、英語あるいは外国語、それからプログラミングが、今後10年、20年、30年、40年、今の子どもたちが成人になって生きて生活する中で必要になるであろう大事な力と認識してございますので、一番大事かという問いについては控えさせていただきたいと思っております。とにかく大事なことが多過ぎますので、いろいろなことを一つ一つ関連づけながら大切に扱って教育をしていきたいと思っております。

以上です。

○議長（吉田敏郎）

武井議員。

○3番（武井正広）

一番重要かという、確かに、いろいろありますので、大事だと認識させていただきました。確かに、前回の学習指導要領の改訂から、かなり、やる教科、中身が増えてきて、授業時数が足りないというのも義務教育内であることは、私も教育委員をやっていましたので、よく認識はしております。ただ、とても大切だということは、改めて確認ができたということです。

さて、具体的な質問になりますが、まず、1項目めのプログラミング教育についてですが、先ほどの答弁の中で、あじさい塾（土曜学校）についての取り組みがありましたが、もう少し具体的に伺えますでしょうか。講師だとか場所だとか人数だとかも含めて、教えていただけるとありがたいです。お願いします。

○議長（吉田敏郎）

教育総務課長。

○教育総務課長（中戸川進二）

ただいまの御質問にお答えをいたします。

あじさい塾でのプログラミングの取り組みということでございますが、あじさい塾、年間を通じてさまざまな講座を実施してございます。今年度、はじめて、本件の学習指導要領の改訂ということも踏まえまして、プログラミングをテーマに、実施時期につきましては5月18日、それから5月25日、この2日間をワンセット、一つの講座として取り扱って実施してございます。

実際の参加者数については、当初、25人ということで決定をいたしましたが、当日、ちょっと御都合が悪いということで22人の参加といったこともございます。ただ、申込者数につきましては、非常に人気がありまして、63人の応募があったとい

う状況でございます。学年については、小学校の１年生から６年生までの学年を対象としてございます。

講師につきましては、パソコン関係の業務をやられている講師を登録をいただきまして、この方にやっていただいております。内容的な部分については、講師のほうでタブレット端末を御用意いただきまして、そのタブレット端末の中にプログラミングに使えるソフトウェアをあらかじめ入れていただきました。その上で、子どもたちが水生生物ですとか宇宙を題材にしたロケットを使ったゲームですとか、そういったことを実際にプログラミングというか、自分で意のままに命令をすることによって、例えば、イカが上に泳いだり左右に動いたり、そのスピードをコントロールしたりといった体験をしてございます。

以上です。

○議長（吉田敏郎）

武井議員。

○３番（武井正広）

すごいですね。２２人に対して６３人。やはり、すごく興味を皆さん、持っておられるのだな、保護者の方々を含めてと。素晴らしい取り組みだと思います。

そういう中で、これから、この１０年ぶりに改訂された学習指導要領のプログラミング教育を、学校での授業はもちろん当然しっかり取り組んでいかれるとは思いますが、教育のまち「開成」としては、今の土曜教育も含めて、授業以外でもしっかりと取り組むことが大切だと考えます。

一つの例ですが、神奈川県の大和市では、小学校での必修化されるプログラミング教育の準備として、今年度から市内全ての小・中学校で寺子屋プログラミング教育を実施しているそうです。来年の導入後の授業を円滑に進めるためには、やはり事前の体験が有効とされているそうです。年に１２回、放課後、各学校のパソコン教室を活用して、民間のＩＣＴ支援員がスクラッチ、スクラッチというのは子ども用のすごく入りやすい学習ソフトなのですけれども、それを使ってやっているそうです。募集定員は２倍から３倍、やはりパソコン教室、限度がありますので、そういった状況が起きているそうです。

それは、そうだと思います。現在、保護者の方が子どもに習わせたい習い事の一番というのは、いろいろなアンケートの中でプログラミングだそうです。そして、２番が英語だそうです。やはり、それだけ今の世の中、それから来年度からの学習指導要領の改訂、それから子どもの将来等を考えたときに、世の中、それから各家庭、保護者も、そういった動きになっているのではないのでしょうか。

また、関連したところでは、松田町では平成２６年からタブレット端末を小学校で配付、現在、５年生から中学生まで１人１台、配付しているそうです。ＩＣＴ教育の意義について、当時、町の教育課はこう言っています。知識や技能の取得だけでなく、思考力や判断力、表現力などを養うことにも有効、加えて松田町の教育に特色を持たせたかった、こう言われていました。先ほどの土曜教育の話はありましたが、今の例

をとりまして、開成町ではいかがでしょうか。

○議長（吉田敏郎）

教育長。

○教育長（井上義文）

ただいまの御質問にお答えします。

それぞれの市・町の取り組みで特色あることは、とても良いことで、お互いに刺激をし合っているということも、教育上、とても良いことだろうと思っています。開成町においては、私、教育長になってから言っていることは、ローカルに学んでグローバルに活躍できる人になると良いですねという話で、開成町全部が教育環境ですねという話を申しあげてきたかと思っています。一つの手法として、コンピューターを介在した客観的な合理的なことを特色とすることも一つでございましょうし、開成町のように、人と人とがじかにつながり合って豊かな心を築いていくということも一つの特色として言えるのではないかなと思っています。

プログラミング、あるいはコンピューター等をやらないではなくて、学習指導要領にのっとって着々と教育はしてございますが、今後の世の中のことを考えたときに、心を耕していくという部分も大事な一つの文科省の役割として出されて示されてございますので、本町の特色からすると、人との触れ合いとか、じかの体験とか。例えば、先日の町の防災訓練のように、中学生が実際に出て地域の方と触れ合いながらさまざまなことをお教えいただいているとか、そういうようなことも一つ、そういう環境になろうかと思っています。

済みません。お答えになったかどうか。プログラミング以外の部分で特色ということでは、言えるかなと思っています。

以上です。

○議長（吉田敏郎）

武井議員。

○3番（武井正広）

プログラミング以外のところでの特徴、私もいろいろかかわらせていただいて、この部分は、よく理解しているつもりではあります。が、やはり10年ぶりの学習指導要領の改訂というのは、本当に大きな世の中、日本の流れの分岐点にもなるのではないかというところなので、そうは言っても、そういったものには力を入れていっていただきたいなと思うところで。

もう一つ。最近、大和や松田の話もさせていただきましたが、民間企業も子どもたちへのプログラミング教育へのいろいろな機会をつくっておられます。ぜひ、さまざまな取り組みの考え方というものがありますので、先ほどの土曜教育も一つかもしれませんが、例えば、大和みたいな取り組みを民間の企業も入れながらやっていくという形もあると思います。ぜひ、考えていただきたい。

そして、当然、お金がかかることです。予算も大変だとは思いますが、ただ、最近、ふるさと納税だとか、そういったものもいろいろあると思いますが、まだ、そこは私

は勉強不足ですが、例えば、ふるさと納税で用途限定で開成町の子どもたち、プログラミング教室をやっていききたいと。開成町は、そういうふうに入力していくのだとなったときに、町外の方も、そういった取り組みを評価して、ふるさと納税、それでしてくれるのではないのでしょうか。などとも私は思っております。ぜひ、教育長、検討いただければと思います。いかがでしょうか。

○議長（吉田敏郎）

教育長。

○教育長（井上義文）

ただいまの御質問にお答えします。

まず、前置きとして、プログラミング教育をないがしろにするというつもりは一切ございませんので、そこは一つ、押さえておいていただきたいと思います。新学習指導要領にのっとって、学校教育の中で必要な教育はしていきますし、町としても、そのような環境はつくっていくということでございます。

先ほど御紹介いただいたマサチューセッツ工科大、MITだと思うのですが、スクラッチというのを全世界に無償配布、ダウンロードできるようなシステムもございまして、一部、そういうところもあるなということで研究も進めてはございます。

それから、外部人材の活用につきましても、学校教育の中でも検討は進める、あるいは、しているという状況もございます。

あと、社会教育的にどうかということについては、今後、また考えさせていただくと。今年のプログラミング教育教室をもとに、もっと広げようとか、もっとこんな方法があるかとかということは、検証・検討はさせていただきたいと思ってございます。

以上です。

○議長（吉田敏郎）

教育総務課長。

○教育総務課長（中戸川進二）

ただいまの御質問の中の経費の部分について、ちょっと私からお答えをさせていただきます。

今、教育長が申しあげたとおり、まずは学校教育の中で、できることはきちんとやっていくということが大前提になってございます。その上で、社会教育の分野でも、連携できる部分については連携をしていくと。そういった形の中で、費用が、やるといったときに、どれくらいかかるかということになってくるかなと思います。さらに、その費用をどうやって捻出していくのかということとは、また、さらに、その次の話になってくると思いますので、当初から当てにしている財源ありきで、そういった事業を組み立てるということまでは、現段階では考えてございません。

以上です。

○議長（吉田敏郎）

武井議員。

○3番（武井正広）

ぜひ、前向きに取り組んでいただければと思います。

それから、もう一点、先ほどのICTの環境の話を1点だけさせていただければ。松田の話をさせていただきましたので、ちょっとデータで。平成28年度のデータなのですが、学校でのコンピューター1台当たり児童・生徒数というデータがあります。28年度で、全国平均は5.9人に対してコンピューターが1台。神奈川県の場合は8人に1台、開成町は11.5人に対して1台、それから、松田町は、ほぼ1人に1台、国の目標は3.6人に1台となっております。もちろん学校数が少なく子どもが多いということは分かりますが、国もこのような目標を掲げているわけですから、ぜひ積極的に取り組んでいただければと思います。この点は、いかがでしょうか。

○議長（吉田敏郎）

教育総務課長。

○教育総務課長（中戸川進二）

ただいまのパソコンの台数について、お答えをいたします。

開成町の小学校、中学校につきましては、基本的には1クラスという単位の中で教育活動に利用するパソコンについては整備をしております。議員おっしゃられたとおり、近隣と比べましても開成町、子どもの数がやはり多いので、人数で割るとちょっと不利な部分はあるのかなというのが正直なところではあります。

ただ、ちょっと誤解のないように申し上げておきたいのが、小学校におきましてはパソコンの授業というものが教科としてあるわけではございません。あくまで、いろいろな教科の中で、必要な調べ学習とかをする際にパソコンを利用するということになります。ただ、利用する際には、操作の仕方が分からないと利用できませんので、操作の仕方も勉強はしております。そういった意味合いから、教育の仕方としてさまざまな考え方があるとは思いますが、台数が少なくても、きちんとやるべきことは小学校、中学校ではやっておりますし、一概に台数だけで比較するというのもいかなものかなと思ってございます。

○議長（吉田敏郎）

武井議員。

○3番（武井正広）

ということは、余り、そこに対して、今後、台数を増やすことによってさわる機会をつくっていくという考え方は、ないということですか。

○議長（吉田敏郎）

教育長。

○教育長（井上義文）

ただいまの御質問にお答えいたします。

開成町の場合は、現実、クラス単位でのパソコンの利用というふうな発想を持っております。とは言いながら、タブレットにつきましては、8台、8台、16台を各学校には置いてございますので、必要に応じて個々のタブレット使用ということも扱

ってはいかがでしょうか。

どういう学習、授業をつくるかというところにも大きく関係するかなと思ってございます。プログラミング学習は、最初の答弁で申しあげたとおり、思考力の育成ということ、まず第一に考えたときに、開成町の学校の場合は、今、ある台数がそういう状況ですので、その中で、より思考力を高める学習はどういうことかということ、1台のタブレットを3人、4人で囲んで「ああじゃない」、「こうじゃない」という各自の考えの表出をしながら練り上げて、「では、これかね」というところで、1台のタブレットなりを使って、クラスでは何グループもできるわけですが、やってございます。

ですので、おいおい、恐らく、将来、どの子もパソコンは自分でポケットに入るような時代が来るのだろうとは思われますが、現段階での設備環境としては、それを活用したそのような授業をしているということで思考力を養っていこうとしています。今後、来年度からはプログラミング的な思考力ということが付加されてくるわけで、今までの思考力と、またちょっとワンステップ、機械にあわせた思考も必要になってくるところもあるのかなとは踏んでございます。

以上です。

○議長（吉田敏郎）

武井議員。

○3番（武井正広）

ぜひ、開成町らしいプログラミング授業をしていていただきたいと思います。

続きまして、時間の関係もありますので、次に、2項目めの英語教育に関して質問させていただきます。

先ほどのプログラミング教育と同様に、外国語活動、英語教育は今回の学習指導要領の改訂での目玉と考えます。そして、町長も、そのような認識の中で、先日、6月議会での所信表明でもありましたが、英語教育を一番最初に触れられていました。英語教育の充実に向けた英語との触れ合いの場づくりと話されておりました。私も、ぜひ、やっていただきたい。ぜひ、進めていただきたい。大賛成です。ただ、これは、具体的にはどのようなことをされるのでしょうか、お聞きできればと思います。町長、よろしくお願いします。

○議長（吉田敏郎）

町長。

○町長（府川裕一）

その前に、開成町は今、人口が伸びて、「元気な町ですね」と言われます。それもうれしいのですけれども、私は、「開成町の子どもたちは元気で良いですね」と言われるのがもっともとうれしいです。実際、今、開成の子どもたちはさまざまな分野で活躍してくれています。文命中学校でも、さまざまな部活で地域ではトップクラス、さまざま評価されていますし、この間の開成小学校でも神奈川県大会で自転車の乗り方大会で優勝し全国大会へ行った。つい先日、また地区の予選会がありましたけれど

も、残念ながら10連覇はできませんでしたけれども、2位、3位、5位、6位と、4チーム出て上位を独占するぐらい。それだけ、今、開成町の子どもたちは頑張ってくれているなという、すごくうれしい思いで今います。

その中で、武井議員が言われるように、「生きる力」をどうやって養っていくかというのは、すごく大事なことだと思っています。ちょっと私が足りないなと思うのは、さまざま、自分で考えて行動する、学習するのもそうなのですから、やはり人とコミュニケーションをとるというのがすごく大事なことのかなと。

先ほど教育長がハード面において足りない部分においても、仲間同士でいろいろな意見交換をしながら、話をしながら進めていくというのはすごく大事なことで、特に、開成町は自治会活動が活発ですので、地域の人たちの力をかりて子どもたちに「生きる力」をつけてもらいたいということで、あじさい塾、土曜学校というものを私はスタートさせていただきました。

今年も、夏には地元企業の皆さんが科学の実験でさまざま、子どもたちに教育、教育という形ではなくて体験学習と私は思っていますけれども、していただいたり、今、役場新庁舎をつくっていますので、その大成さんの新しい最新技術の建築工法を実際、現場で子どもたちに見てもらったりという。学校の授業、知識、プラス、さらに、そこに知恵を私は育んでももらいたい、それが「生きる力」だなと。そのためにはさまざまな体験をしていくことがすごく大事だと思って、土曜学校、あじさい塾をスタートさせたと思っています。

それと、今、これから教育改革の中でプログラミング教育と英語が大事と武井議員が言われましたけれども、もちろんそうなのですから、私は、英語が全員しゃべれるようになるというよりも、英語だけではなくて、外国の人たちに接したときに、英語がしゃべれなくても臆することなくジェスチャーでも何でもできるような、そういう力のある子どもになってもらえば良いのかなと。それが体験学習の中で力をつけてもらいたい一つの具体的な、私は、ことだと思っています。

今、いろいろな機器がありますよ。ライントークでしたっけ、この間、あじさいまつりでもやっていましたけれども、ポケトークですか、翻訳機、しゃべれなかったら、それを使ったら良いわけではないですか。そういう知恵、何かしら相手とコミュニケーションをとる方法を自分で考えて、それをやっていける人間、やっていける子どもたちにしていきたいと思っています。

そういう意味で、英語の外国の人たちと接する機会を今、幼稚園でも実際にやっています、もう。これから新たにというよりは、もう既に開成町においては、そういう機会を多く持っています。大学の留学生等、来ていただいて、しゃべれる、しゃべれないよりも、そういう人たちと普段から接することによって、いろいろな人たちの考えや言葉や、そういうものがあることに気づいて、関心があれば、その言葉を勉強しようという。そのきっかけづくりが、すごく大事だと私は思っています。

そういう意味で、「生きる力」という部分において、外国の人と接する機会を幼稚園から増やしていくこと、そのことは具体的にもう実際やっています。これから新規

というよりも、もう既に。それを、さらに充実をさせていきたいと考えております。
以上です。

○議長（吉田敏郎）

武井議員。

○3番（武井正広）

今、町長がおっしゃったことは、英語教育の充実に向けた英語との触れ合いの場づくりということは、まずは臆することなく外国人としっかり向き合える子にしたい、そのために接する機会を今以上に多くしたい、留学生等を活用しながら、そういう機会をさらにつくりたいということの認識でよろしいですか。

○議長（吉田敏郎）

町長。

○町長（府川裕一）

はい、結構です。

○議長（吉田敏郎）

武井議員。

○3番（武井正広）

接する機会をつくることは、当然、大切だと思います。先日、外資系企業で働いている方がこのように話をされていました。日本ほど、英語が話せることによって仕事につける、有利につける国はほかにない。まさに、これからの世の中を生きる子どもたちにとって、英語を話せること、英語のコミュニケーションをとれることは大切だと考えます。

さて、先ほどの質問に関連しますが、この所信表明と同様に、第五次開成町総合計画の後期基本計画・実施計画の中で、外国語教育、国際理解教育推進事業とあります。この中で、留学生を講師とした国際理解・交流教育の実施とありますが、これは、具体的にはどのようなことを言うのでしょうか。お願いします。

○議長（吉田敏郎）

教育長。

○教育長（井上義文）

ただいまの御質問にお答えします。

現在、継続して開成町の特色として、二つの小学校に、ある大学に留学している学生さんが10名ずつぐらい、お越しいただいてございます。それも、今般の改訂にあった英語を母国語とする方だけではないさまざまな方、皮膚の色もさまざまな方、頭髪の色もさまざまな方、これはとても大事なことだと私は思っております。世界中、青い目と金髪、銀髪だけではない、白い皮膚だけではない、さまざまな方がいるのが世界なのだ、国際理解をする上でとても大切なことかなと思っております。

そういう方々を小学校に一日、お招きして、子どもたちと、主に5年生が主だったかと思いますが、一日、過ごします。給食も食べ、遊びもし、掃除もして、日本の学校の日を体験してもらおうということで彼らにとってはメリットですし、私たち開成

の子どもたちにとっても、さまざまな人と仲良くなれた、しゃべれた、握手ができた、一緒にボール投げができた、たったそれだけなのですが、そこがすごく感動があって、後々、あそこの国へ行きたい、あるいは文通のような形をしたい、あそこの国の言葉を習いたいなどなど、一人一人の感性に触れるところがたくさんあります。大変ありがたい事業だなと思っていますので、それは今後も続けていきたいと思っています。

以上です。

○議長（吉田敏郎）

武井議員。

○3番（武井正広）

10名ずつ、世界のさまざまな国の方々が一日、来られて交流をする。素晴らしいことなのではけれども、もう少し頻度を上げたほうが良いのではないかなとは思いますが、さすがに一日ですと、本当のイベントの体験にしかないのではないかなと。取り組みとしては良いのですけれども。

まず、留学生を講師とした国際理解、交流教育自体というのは、本当に素晴らしい取り組みだと思います。私も、7月に1カ月間、開成町にアメリカからザンダさんという大学生が滞在しておりましたが、私の家にも3週間ほどホームステイしていました。その間、開成小学校、開成南小学校、そして文命中学校にも、英語の授業のALTのサポートとして6日間、活動させていただきました。

子どもたちにとっては、やはり習うよりはなれろ、外国人と先ほどもありましたが直接交流を持つということがとても大切ですよ。町長も教育長も、おっしゃっていました。この3週間、英語がしゃべれない私でさえ、単語を二つ、三つ重ねてコミュニケーションをとろうとします。彼は日本語をしゃべれるのですけれども。ぜひ、子どもたちに外国人と直接交流を持てる機会をたくさんつくっていただきたい。来年度も今年同様、留学生の受け入れができるように私たちのチームも取り組んでいきますので、昨年、今年同様、さらに活用していただきたい。子どもたちのために、いかがでしょうか、その点については。

○議長（吉田敏郎）

教育長。

○教育長（井上義文）

ただいまの御質問にお答えします。

ありがたいお言葉かなとは思っていますが、基本的には。ただ、いかんせん学校の教育時間に限りがございますので、その中で上手にさまざまな良いことを割り振っていかねばいけないというのも学校の現実でございますので、そこらあたりのバランス調整は今後も図らせていただきたいと思っています。

以上です。

○議長（吉田敏郎）

武井議員。

○ 3 番（武井正広）

そうですね。授業時数、これだけいっぱいになって、8月の後半から学校がはじまるような状況ですから、当然、そこは分かります。そして、先ほどの分、私たち民間も頑張りますが、先日のタウンニュースにも掲載されていました。松田町では、さらに積極的に国際交流を行っているようです。マレーシアと交流し、留学生を受け入れ、年に3回、町民、児童・生徒との交流を行うそうです。授業時数、そういったことも分かりますけれども、さらに踏み込んで、こういった取り組みもぜひ検討いただきたいと思いますが、いかがですか。

○議長（吉田敏郎）

教育長。

○教育長（井上義文）

ただいまの御質問にお答えいたします。

確かに、グローバルに生きるであろう子どもたちにとっては、さまざまな日本国籍以外の方々と日ごろ触れ合っておくということは、とても大事だと認識してございます。ですので、限られた授業時間数の中で、できることは精いっぱいやっていこうとは思っております。

それから、もう一つ加えるならば、先ほどの留学生に、さまざまな国の方にも子どもたちが物おじ余りせずに接している様子を見るにつけ、やはり小学校時代からネイティブな方々が学校現場に、幼稚園からですね、学校現場に入っているから、国際的なさまざまな方が来られても余り物おじせずに興味を持って接していこうとしているのかなと思っておりますので、今のようにネイティブの、ALTですが、をやはり学校に今後も配置し続けて、普通にそういう方がおられるという環境は今後もつくっていききたいと思っております。

以上です。

○議長（吉田敏郎）

武井議員。

○ 3 番（武井正広）

ぜひ、よろしくお願いいたします。

この近隣でも、外国人の在住者や観光客は年々確実に増加していると思います。何度も言いますが、英語を話せることはとても大切、英語でコミュニケーションをとれることはとても大切だと考えます。

例えば、一例になりますが、来年4月、南箱道路が開通します。大井松田から開成町、南足柄市、仙石原、そして仙石原からアサヒビール、瀬戸屋敷、大井松田というような人の流れができてくるかもしれません。そして、つくっていかなければならないと思います。それにより、今以上に外国人が開成町に、瀬戸屋敷に来ることが予想されます。また、増えていってもらわないと困ります。そのときに、開成町の子どもたちが、例えば、瀬戸屋敷で外国人の方と交流を持てる機会もできるのではないのでしょうか。

年間２千万人の箱根への観光客、外国人も１００万人を超えているそうです。このうちの数パーセント、１０パーセント、こういった地域を経由してくれれば。総合教育会議も、現在はあります。町長の意向も、町全体の教育に大きな影響を与えます。ぜひ、開成町の子どもたちのために、そして開成町のために、このタイミングで、既に遅いぐらいですけれども、いろいろな先ほど議論はしましたが、新学習指導要領が全面実施されたこのタイミングで、英語教育やプログラミング教育を前面に押し出した特色ある魅力ある教育のまち「開成」として突き進んでいただきたいと思います。

最後に、町長、いかがでしょうか。

○議長（吉田敏郎）

町長。

○町長（府川裕一）

確かに、武井議員の言われるように、この二つは大変重要なことだとは思いますが、けれども、私は、それに、さらに、体験的ではありませんけれども、町民を挙げて地域の人たちの力をかりて子どもたちに力をつけさせたいというのが。これは、総合教育会議の中で、学校の中の話とは別に、町部局でできる分野においては全面的に、子どもたちが健やかに育つような方策はこれからも実施をしていきたいと思っています。

以上です。

○議長（吉田敏郎）

武井議員。

○３番（武井正広）

当然、できること、できないこと、あると思いますけれども、改めますが、ぜひ、英語教育、プログラミング教育、開成町の顔としてよろしくお願いします。

それから、最後になりますが、先日、開成町内で賃貸住宅にお住まいの方です、そして近隣企業にお勤めの小さいお子さんがいるお父さんと話をしました。まだ１歳ちょっとのお父さんなのですが、私にこう言いました。「まだ子どもが小さく、この先、どこに住居を構えるのか、今、考えています。開成町は、この先、どうなっていくのですか。どう将来を考えているのですか」ということを言われました。このような方々にも選んでいただけるような町であり続けるためには、教育にも今まで以上に特色を持たせ、子どもたちのためにも町のためにもなるような取り組みを、ぜひ、していただきたいと思います。

以上で質問を終わりにします。ありがとうございました。

○議長（吉田敏郎）

以上で武井正広議員の一般質問を終了とします。